

令和6年度 学校保健統計調査結果の概要

労働力・学事・農林班
電話 043-223-2220

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、統計法に基づく基幹統計調査として、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の根拠

統計法（平成19年法律第53号）、統計法施行令（平成20年政令第334号）及び学校保健統計調査規則（昭和27年文部省令第5号）による。

3 調査の範囲・対象

調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）とする。

調査の対象は、調査実施校に在籍する満5歳～17歳（令和6年4月1日現在）の幼児、児童及び生徒とする。

なお、千葉県の調査実施校数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

区分	県内学校数等		調査実施校等					
	学校総数 (校・園) A	児童等総数 (人) B	調査実施校数		発育状態調査対象		健康状態調査対象	
			(校・園) C	抽出率 C/A %	者数(人) D	抽出率 D/B %	者数(人) E	抽出率 E/B %
幼稚園	584	24,422	42	7.2	1,629	6.7	2,618	10.7
小学校	762	296,804	64	8.4	6,054	2.0	37,413	12.6
中学校	393	155,040	44	11.2	5,099	3.3	23,678	15.3
高等学校	182	136,729	38	20.9	3,375	2.5	34,687	25.4

- (注) 1 学校総数、児童等総数は令和6年度学校基本調査結果による。
2 発育状態調査は、年齢別、男女別に抽出された者を調査対象とし、健康状態調査では、調査実施校の在学者全員を調査対象者としている。
3 幼稚園の児童等総数は「満5歳児」の人数。
4 幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校の第1～6学年を、中学校には中等教育学校の前期課程及び義務教育学校の第7～9学年を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む。
5 高等学校の学校総数及び児童等総数には「通信制課程」を含んでいない。

4 調査事項

- (1) 幼児、児童及び生徒の発育状態（身長、体重）
- (2) 幼児、児童及び生徒の健康状態（栄養状態、せき柱・胸郭・四肢の状態、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯及び口腔の疾病・異常の有無、結核の有無及び結核に関する検診の結果、心臓の疾患・異常の有無、尿、その他の疾病・異常の有無）

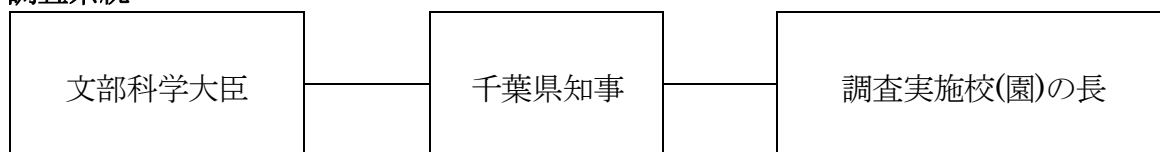
5 調査の時期

調査は、学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、令和6年4月1日から令和6年6月30日の間に実施した。

令和2年度から令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日の間に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間を年度末まで延長することとした。

このため、令和2年度から令和5年度の集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、令和元年以前および本年の数値と比較することはできない。

6 調査系統



7 利用上の注意

- (1) 統計表の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「 — 」 ----該当者がいない場合
 - 「 0.0 」 ----計数が単位未満の場合
 - 「 … 」 ----調査対象とならなかった場合
 - 「 X 」 ----標本サイズが小さい、又は標準誤差が大きいため統計数値を公表しない場合
- (2) 表示単位未満は、四捨五入となっている。

このため、数値の内訳と合計が一致しない場合がある。
- (3) 健康状態調査については、平成18年度から調査対象校の全在学者を対象に調査を実施した。

Ⅱ 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長・体重の全国平均値との比較

千葉県平均値と全国平均値の比較をみると、

① 身長

男子は、5、7～12、14、15及び17歳で上回り、6歳では同値、他の年齢では下回っている。

女子は、8～17歳で上回り、5～7歳では同値である。(表1)

② 体重

男子は、5、8、10、11、13及び14歳で上回り、6、12歳では同値、他の年齢では下回っている。

女子は、8、9、12及び14～17歳で上回り、5、11歳では同値、他の年齢では下回っている。(表1)

表1 身長・体重の全国平均値との比較

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			千葉県①	全国②	差①－②	千葉県③	全国④	差③－④
男	幼稚園	5歳	110.8	110.6	0.2	19.1	19.0	0.1
	小学校	6	116.7	116.7	0.0	21.4	21.4	0.0
		7	123.0	122.6	0.4	24.1	24.2	△ 0.1
		8	128.7	128.5	0.2	27.8	27.6	0.2
		9	134.3	134.0	0.3	31.1	31.2	△ 0.1
		10	140.6	139.7	0.9	35.7	35.2	0.5
		11	146.3	146.0	0.3	39.8	39.6	0.2
	中学校	12	154.3	154.0	0.3	45.3	45.3	0.0
		13	161.0	161.1	△ 0.1	51.0	50.5	0.5
		14	166.4	166.1	0.3	55.2	55.0	0.2
	高等学校	15	169.0	168.6	0.4	58.7	59.0	△ 0.3
		16	169.6	169.9	△ 0.3	60.0	60.5	△ 0.5
		17	171.1	170.8	0.3	61.8	62.2	△ 0.4
女	幼稚園	5歳	109.6	109.6	0.0	18.7	18.7	0.0
	小学校	6	115.8	115.8	0.0	20.9	21.0	△ 0.1
		7	121.8	121.8	0.0	23.3	23.7	△ 0.4
		8	128.2	127.7	0.5	27.0	26.9	0.1
		9	134.7	134.1	0.6	31.0	30.5	0.5
		10	141.4	141.1	0.3	34.8	35.0	△ 0.2
		11	147.9	147.8	0.1	40.1	40.1	0.0
	中学校	12	152.6	152.3	0.3	44.7	44.4	0.3
		13	155.6	155.0	0.6	47.4	47.5	△ 0.1
		14	156.8	156.4	0.4	49.9	49.6	0.3
	高等学校	15	157.4	157.1	0.3	51.5	51.1	0.4
		16	158.2	157.7	0.5	52.8	52.0	0.8
		17	158.5	158.0	0.5	53.3	52.5	0.8

(2) 身長・体重の年齢較差・男女差

① 身長

年齢較差を見ると、男子では、11歳と12歳の差が8.0 cm、女子では、9歳と10歳の差が6.7 cmと最大となっている。

また、男女差を見ると、9～11歳では、女子が男子を上回っている。(表2)

③ 体重

年齢較差を見ると、男子では、12歳と13歳の差が5.7 kg、女子では、10歳と11歳の差が5.3 kgと最大となっている。

また、男女差を見ると、11歳では、女子が男子を上回っている。(表2)

※年齢較差とは、例えば男子6歳の身長については、6歳(116.7 cm)から5歳(110.8 cm)を差し引いた5.9 cmである。

表2 身長・体重の年齢較差・男女差(千葉県)

区分		身長(cm)					体重(kg)				
		男子①		女子②		差 ①－②	男子③		女子④		差 ③－④
			年齢較差		年齢較差			年齢較差		年齢較差	
幼稚園	5歳	110.8		109.6		1.2	19.1		18.7		0.4
小学校	6	116.7	5.9	115.8	6.2	0.9	21.4	2.3	20.9	2.2	0.5
	7	123.0	6.3	121.8	6.0	1.2	24.1	2.7	23.3	2.4	0.8
	8	128.7	5.7	128.2	6.4	0.5	27.8	3.7	27.0	3.7	0.8
	9	134.3	5.6	134.7	6.5	△ 0.4	31.1	3.3	31.0	4.0	0.1
	10	140.6	6.3	141.4	6.7	△ 0.8	35.7	4.6	34.8	3.8	0.9
	11	146.3	5.7	147.9	6.5	△ 1.6	39.8	4.1	40.1	5.3	△ 0.3
中学校	12	154.3	8.0	152.6	4.7	1.7	45.3	5.5	44.7	4.6	0.6
	13	161.0	6.7	155.6	3.0	5.4	51.0	5.7	47.4	2.7	3.6
	14	166.4	5.4	156.8	1.2	9.6	55.2	4.2	49.9	2.5	5.3
高等学校	15	169.0	2.6	157.4	0.6	11.6	58.7	3.5	51.5	1.6	7.2
	16	169.6	0.6	158.2	0.8	11.4	60.0	1.3	52.8	1.3	7.2
	17	171.1	1.5	158.5	0.3	12.6	61.8	1.8	53.3	0.5	8.5

(3)親の世代（３０年前：平成６年度）との比較

親の世代との比較をみると、

① 身長

男子は、８～１５歳で上回り、７歳では同値、他の年齢では下回った。

また、１０及び１３歳で最も差が大きかった。

女子は、８～１４及び１６歳で上回り、１５及び１７歳では同値、他の年齢では下回った。

また、６及び１１歳で最も差が大きかった。（表３）

② 体重

男子は、８～１５歳で上回り、他の年齢では下回った。

また、１６歳で最も差が大きかった。

女子は、８～１１歳で上回り、１２歳では同値、他の年齢では下回った。

また、１５歳で最も差が大きかった。（表３）

表３ 親の世代（３０年前：平成６年度）との比較（千葉県）

区分			身長(cm)			体重(kg)		
			令和 6年度①	平成 6年度②	差 ①－②	令和 6年度③	平成 6年度④	差 ③－④
男	幼稚園	5歳	110.8	111.2	△ 0.4	19.1	19.5	△ 0.4
	小学校	6	116.7	117.2	△ 0.5	21.4	21.7	△ 0.3
		7	123.0	123.0	0.0	24.1	24.6	△ 0.5
		8	128.7	128.5	0.2	27.8	27.6	0.2
		9	134.3	133.9	0.4	31.1	30.8	0.3
		10	140.6	139.0	1.6	35.7	34.3	1.4
		11	146.3	145.2	1.1	39.8	38.8	1.0
	中学校	12	154.3	153.1	1.2	45.3	44.8	0.5
		13	161.0	159.4	1.6	51.0	49.5	1.5
		14	166.4	165.2	1.2	55.2	54.9	0.3
	高等学校	15	169.0	168.7	0.3	58.7	58.6	0.1
		16	169.6	170.4	△ 0.8	60.0	62.1	△ 2.1
		17	171.1	171.4	△ 0.3	61.8	63.4	△ 1.6
女	幼稚園	5歳	109.6	110.2	△ 0.6	18.7	19.1	△ 0.4
	小学校	6	115.8	116.8	△ 1.0	20.9	21.7	△ 0.8
		7	121.8	122.6	△ 0.8	23.3	24.1	△ 0.8
		8	128.2	127.8	0.4	27.0	26.9	0.1
		9	134.7	133.8	0.9	31.0	30.8	0.2
		10	141.4	140.5	0.9	34.8	34.5	0.3
		11	147.9	146.9	1.0	40.1	39.3	0.8
	中学校	12	152.6	152.0	0.6	44.7	44.7	0.0
		13	155.6	155.1	0.5	47.4	48.0	△ 0.6
		14	156.8	156.7	0.1	49.9	50.9	△ 1.0
	高等学校	15	157.4	157.4	0.0	51.5	52.6	△ 1.1
		16	158.2	157.9	0.3	52.8	53.3	△ 0.5
		17	158.5	158.5	0.0	53.3	53.9	△ 0.6

2 健康状態

(1) 疾病・異常の被患率の状況

幼稚園では「むし歯（う歯）」の比率が最も高く、小学校、中学校及び高等学校では「裸眼視力 1.0 未満の者」の比率が最も高くなっている。

また、「むし歯（う歯）」「裸眼視力 1.0 未満の者」以外は、幼稚園では「歯列・咬合」、小学校、中学校及び高等学校では「鼻・副鼻腔疾患」の比率が高くなっている。（表 4）

表 4 疾病・異常の被患率の状況（千葉県）

区分(%)		幼稚園	小学校	中学校	高等学校
70以上～90未満					裸眼視力1.0未満の者 72.8
60～70					
50～60				裸眼視力1.0未満の者 56.2	
40～50					
30～40			裸眼視力1.0未満の者 34.5		
20～30			むし歯(う歯) 27.7	むし歯(う歯) 21.9	むし歯(う歯) 29.4
10～20		むし歯(う歯) 17.5	鼻・副鼻腔疾患 14.1	鼻・副鼻腔疾患 14.2	
1～10	8～10				
	6～8		歯・口腔のその他の疾病・異常 7.9 眼の疾病・異常 7.3 歯列・咬合 6.3		
	4～6	歯列・咬合 5.3	耳疾患 5.4 ぜん息 5.2 その他の疾病・異常 4.4	耳疾患 5.3 歯列・咬合 5.3 その他の疾病・異常 4.6 眼の疾病・異常 4.5	鼻・副鼻腔疾患 5.6
	2～4	歯・口腔のその他の疾病・異常 3.0 眼の疾病・異常 2.2	アトピー性皮膚炎 3.7 歯垢の状態 3.7	歯・口腔のその他の疾病・異常 3.7 歯垢の状態 3.1 アトピー性皮膚炎 2.8 ぜん息 2.8 心電図異常 2.4	その他の疾病・異常 3.2 歯列・咬合 2.8 歯垢の状態 2.7 眼の疾病・異常 2.5 心電図異常 2.2
	1～2	ぜん息 1.7 鼻・副鼻腔疾患 1.0	歯肉の状態 1.8 栄養状態 1.3	歯肉の状態 1.9 せき柱の状態 1.7 蛋白検出の者 1.4 心臓の疾病・異常 1.0	歯肉の状態 1.8 ぜん息 1.6 蛋白検出の者 1.6 耳疾患 1.4 アトピー性皮膚炎 1.4 歯・口腔のその他の疾病・異常 1.2
0.1～1	0.5～1	その他の皮膚疾患 0.9 アトピー性皮膚炎 0.8 歯垢の状態 0.8 その他の疾病・異常 0.7 心臓の疾病・異常 0.6	心電図異常 0.9 心臓の疾病・異常 0.8 せき柱の状態 0.8 言語障害 0.6 難聴 0.5 口腔咽喉頭疾患・異常 0.5	口腔咽喉頭疾患・異常 0.7	口腔咽喉頭疾患・異常 0.8 せき柱の状態 0.8 心臓の疾病・異常 0.6
	0.1～0.5	栄養状態 0.4 蛋白検出の者 0.4 言語障害 0.3 顎関節 0.1 耳疾患 0.1 せき柱の状態 0.1 胸郭の状態 0.1	蛋白検出の者 0.4 腎臓疾患 0.4 その他の皮膚疾患 0.2 結核の精密検査の対象者 0.2 四肢の状態 0.2 尿糖検出の者 0.1	難聴 0.4 栄養状態 0.4 四肢の状態 0.4 腎臓疾患 0.3 その他の皮膚疾患 0.3 顎関節 0.1 結核の精密検査の対象者 0.1 尿糖検出の者 0.1 言語障害 0.1 胸郭の状態 0.1	難聴 0.3 顎関節 0.3 四肢の状態 0.2 腎臓疾患 0.2 その他の皮膚疾患 0.2 尿糖検出の者 0.2
0.1未満		四肢の状態 0.0	顎関節 0.0 胸郭の状態 0.0 結核 0.0		言語障害 0.0 栄養状態 0.0 胸郭の状態 0.0 結核 0.0

- (注) 1 疾病・異常被患率の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満、回答校が1校以下のときは、統計数値を公表しない。
2 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
3 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。
4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
5 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
6 「蛋白検出の者」とは、尿検査のうち、蛋白第1次検査の結果、尿中に蛋白が検出(陽性(+)以上)又は擬陽性(±)と判定)された者である。
7 「尿糖検出の者」とは、尿検査のうち、糖第1次検査の結果、尿中に糖が検出(陽性(+)以上)と判定)された者である。

(2) 主な疾病・異常の被患率の推移及び全国値との比較

疾病・異常の被患率のうち主なものについて、全国値との比較をみると、

- ・「むし歯（う歯）」は、全ての学校種別で下回った。
- ・「裸眼視力 1.0 未満の者」は、高等学校で上回った。
- ・「鼻・副鼻腔疾患」は、小学校、中学校で上回った。
- ・「ぜん息」は、全ての学校種別で上回った。
- ・「心電図異常」は、小学校、中学校及び高等学校で下回った。
- ・「蛋白検出の者」は、全ての学校種別で下回った。（表 5）

表 5 主な疾病・異常の被患率の推移及び全国値との比較

（単位：％）

区分		むし歯(う歯)			裸眼視力1.0未満の者			鼻・副鼻腔疾患		
		千葉県①	全国②	差①－②	千葉県③	全国④	差③－④	千葉県⑤	全国⑥	差⑤－⑥
幼稚園	令和2年	28.3	30.3	△ 2.0	X	27.9	…	0.5	2.4	△ 1.9
	3年	20.1	26.5	△ 6.4	X	24.8	…	6.3	3.0	3.3
	4年	19.3	24.9	△ 5.6	X	25.0	…	2.6	3.0	△ 0.4
	5年	17.9	22.6	△ 4.7	X	22.9	…	0.6	3.0	△ 2.4
	6年	17.5	20.7	△ 3.2	X	26.5	…	1.0	2.7	△ 1.7
小学校	令和2年	33.8	40.2	△ 6.4	36.1	37.5	△ 1.4	15.7	11.0	4.7
	3年	34.2	39.0	△ 4.8	35.4	36.9	△ 1.5	14.5	11.9	2.6
	4年	32.1	37.0	△ 4.9	37.5	37.9	△ 0.4	14.5	11.4	3.1
	5年	30.2	34.8	△ 4.6	37.7	37.8	△ 0.1	14.5	12.4	2.1
	6年	27.7	32.9	△ 5.2	34.5	36.8	△ 2.3	14.1	12.1	2.0
中学校	令和2年	26.9	32.2	△ 5.3	51.4	58.3	△ 6.9	16.5	10.2	6.3
	3年	25.2	30.4	△ 5.2	56.6	60.7	△ 4.1	10.4	10.1	0.3
	4年	23.7	28.2	△ 4.5	65.4	61.2	4.2	19.8	10.7	9.1
	5年	24.6	28.0	△ 3.4	63.8	60.9	2.9	10.1	10.5	△ 0.4
	6年	21.9	26.5	△ 4.6	56.2	60.6	△ 4.4	14.2	10.6	3.6
高等学校	令和2年	38.7	41.7	△ 3.0	X	63.2	…	3.4	6.9	△ 3.5
	3年	34.5	39.8	△ 5.3	X	70.8	…	X	8.8	…
	4年	31.5	38.3	△ 6.8	X	71.6	…	4.7	8.5	△ 3.8
	5年	31.1	36.4	△ 5.3	68.8	67.8	1.0	7.6	7.6	0.0
	6年	29.4	34.7	△ 5.3	72.8	71.1	1.7	5.6	7.9	△ 2.3

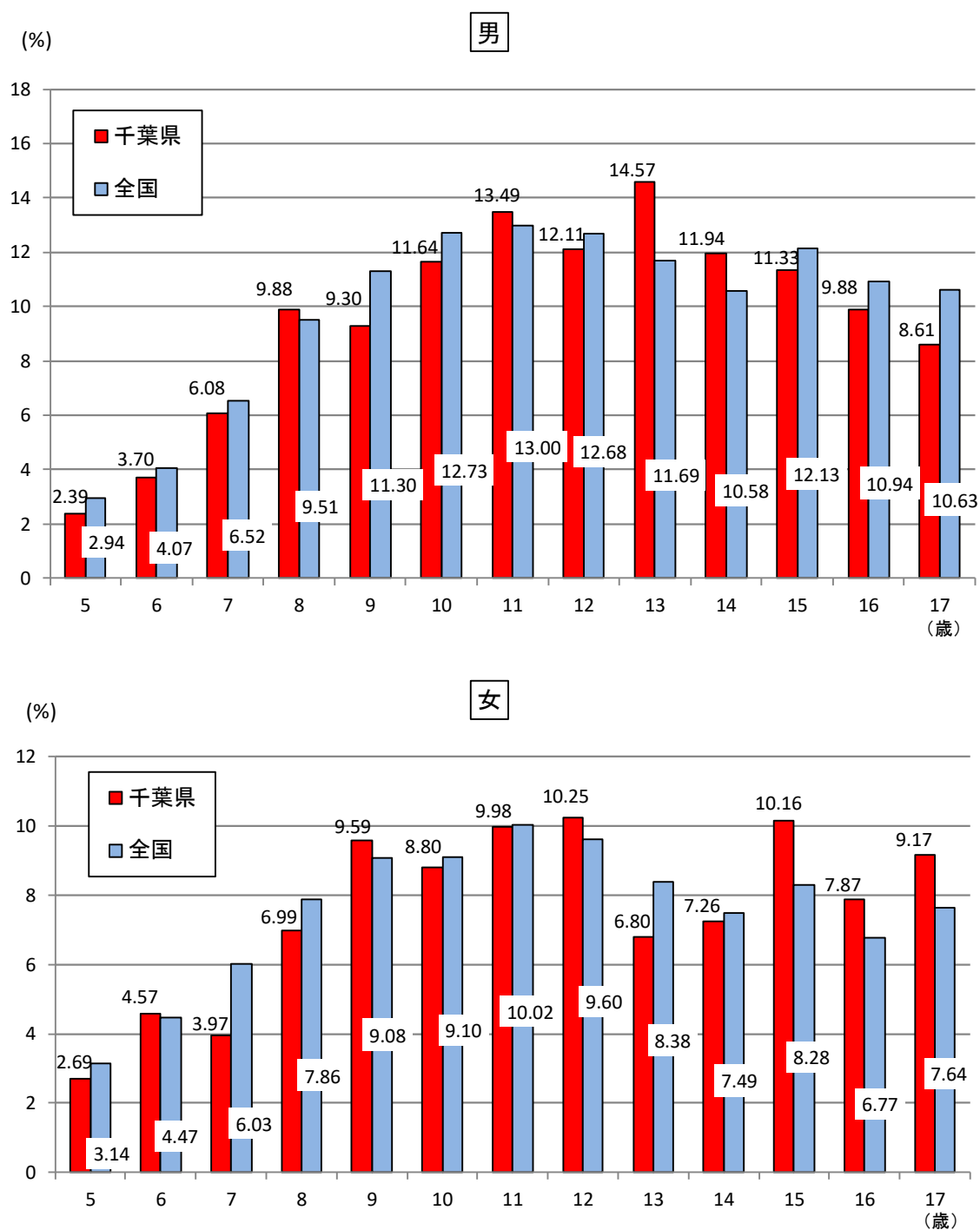
区分		ぜん息			心電図異常			蛋白検出の者		
		千葉県⑦	全国⑧	差⑦－⑧	千葉県⑨	全国⑩	差⑨－⑩	千葉県⑪	全国⑫	差⑪－⑫
幼稚園	令和2年	1.8	1.6	0.2	…	…	…	0.7	1.0	△ 0.3
	3年	4.4	1.5	2.9	…	…	…	0.7	0.7	0.0
	4年	1.9	1.1	0.8	…	…	…	0.6	0.9	△ 0.3
	5年	2.4	1.2	1.2	…	…	…	0.4	1.1	△ 0.7
	6年	1.7	1.2	0.5	…	…	…	0.4	1.2	△ 0.8
小学校	令和2年	5.2	3.3	1.9	1.1	2.5	△ 1.4	0.5	0.9	△ 0.4
	3年	5.5	3.3	2.2	1.6	2.5	△ 0.9	0.8	0.9	△ 0.1
	4年	4.7	2.9	1.8	1.2	2.6	△ 1.4	0.6	1.0	△ 0.4
	5年	4.8	2.9	1.9	1.8	2.4	△ 0.6	0.6	0.8	△ 0.2
	6年	5.2	2.9	2.3	0.9	2.6	△ 1.7	0.4	1.0	△ 0.6
中学校	令和2年	4.1	2.6	1.5	2.2	3.3	△ 1.1	2.7	3.3	△ 0.6
	3年	3.1	2.3	0.8	1.4	3.1	△ 1.7	2.0	2.8	△ 0.8
	4年	3.7	2.2	1.5	1.4	3.2	△ 1.8	1.5	2.9	△ 1.4
	5年	2.9	2.0	0.9	1.9	3.2	△ 1.3	1.3	2.8	△ 1.5
	6年	2.8	1.9	0.9	2.4	3.0	△ 0.6	1.4	2.8	△ 1.4
高等学校	令和2年	2.3	1.8	0.5	2.3	3.3	△ 1.0	2.4	3.2	△ 0.8
	3年	2.4	1.7	0.7	1.5	3.2	△ 1.7	1.3	2.8	△ 1.5
	4年	2.7	1.7	1.0	2.3	3.0	△ 0.7	2.9	2.8	0.1
	5年	1.6	1.5	0.1	2.3	3.1	△ 0.8	1.1	2.5	△ 1.4
	6年	1.6	1.4	0.2	2.2	3.1	△ 0.9	1.6	2.7	△ 1.1

（注）心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。

3 肥満傾向児の出現率の全国値との比較

肥満傾向児の出現率について、全国値との比較をみると、男子は、8、11、13及び14歳で上回ったが、他の年齢では下回った。女子は、6、9、12、15、16及び17歳で上回ったが、他の年齢では下回った。
(図1)

図1 肥満傾向児の出現率の全国値との比較



(注) 1 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

2 肥満傾向児の算出については、平成18年度から現行の方法に変更されている。